

平成 20 年度研究指定校共同研究事業（特別支援学校）

特別支援学校の 特色あるカリキュラムの開発 ～ 分教室を対象として～



平成 21 年 3 月

神奈川県立総合教育センター

はじめに

平成 20 年 3 月に幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領(文部科学省告示)が改訂され、12 月には高等学校・特別支援学校学習指導要領の改訂案が示されました。それにより各学校においては、新学習指導要領等への対応が課題となります。

特別支援教育については、平成 20 年 1 月の中央教育審議会による「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」の中で、改善の基本方針として在籍する子どもの障害の重度・重複化、多様化に伴うきめ細かな教育の充実や、企業等への就職の厳しい状況を踏まえた職業教育や進路指導の改善、発達障害のある子どもへの適切な対応等が課題として示されています。

神奈川県においては、平成 19 年 8 月に「かながわ教育ビジョン」が策定され、その中の重点的な取組に「共に育ち合う教育」として、「障害のある子どもの自立と社会参加を進める」ことが明記されています。

こうした現状を踏まえ、各学校には、社会、地域、家庭と連携し、子どもの教育的ニーズを踏まえた特色あるカリキュラムづくりが求められています。

神奈川県立総合教育センターでは、今年度研究指定校共同事業において、学校とセンターが共同で「特色あるカリキュラム開発」について研究を行いました。本冊子を、各学校における特色あるカリキュラムづくりの一助としてご活用ください。

平成 21 年 3 月

神奈川県立総合教育センター

所 長 安 藤 正 幸

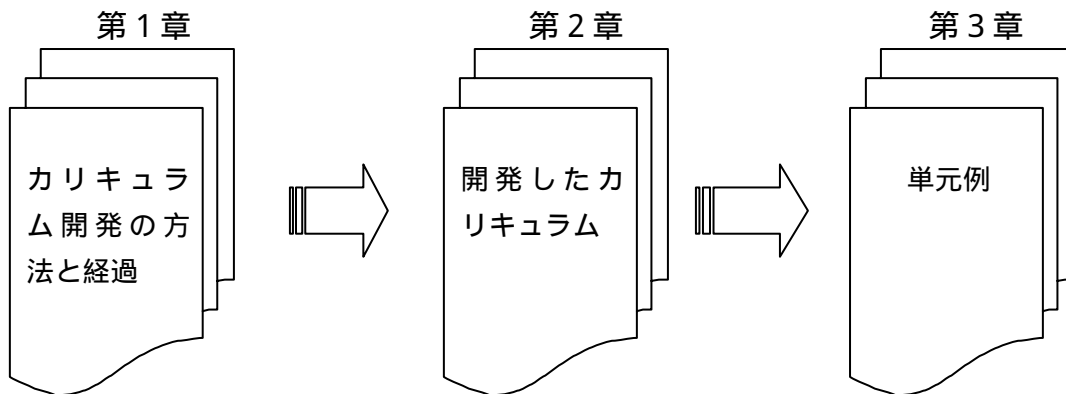
目次

はじめに	
目次	
本冊子の構成、本冊子の活用について	
第1章 カリキュラム開発の方法と経過	1
1 研究の背景	1
2 研究のねらい	2
3 研究スケジュール	2
4 研究校分教室の概要	2
5 カリキュラム開発の方法と視点	3
(1) カリキュラム開発の方法	3
(2) 開発の視点	4
生徒の実態の把握～アセスメントの実施～	4
指導内容や支援の方法の検討～ケース会の実施～	5
地域資源の活用	6
社会参加を目指したカリキュラムの検討	7
授業研究の実施～多面的な検討～	8
第2章 開発したカリキュラム	9
1 カリキュラムの特色	9
2 カリキュラム一覧	11
第3章 単元例	16
【総合】単元名：「仲間づくり - 就労体験の報告」	17
【職業】単元名：「職業インタビュー」	18
【職業】単元名：「図書館での就労体験」	19
【職業】単元名：「運動公園での就労体験」	20
引用・参考文献	21
作成関係者	

本冊子の構成

平成 20 年度研究指定校共同研究事業として、神奈川県内の特別支援学校 1 校（以下、「研究校」と表記。）と神奈川県立総合教育センター（以下、「センター」と表記。）が共同で「特色あるカリキュラム開発」について研究し、具体的実践を行いました。

本冊子は、第 1 章で「カリキュラム開発の方法と経過」について、第 2 章で「開発したカリキュラム」について報告し、第 3 章では「単元例」を紹介します。



本冊子の活用について

研究成果は、分教室のみならず、今後開校が予定されている特別支援学校や既設の特別支援学校の教育実践の展開、発展、改善のために活用されることを期待しています。

第1章 カリキュラム開発の方法と経過

1 研究の背景

社会の変化と学校を取り巻く状況の変化が著しい中、中央教育審議会は平成20年1月に新しい学習指導要領の改善の方向性を示しました。ここには、各学校は地域の実態、子どもの発達段階や特性を考慮して、適切なカリキュラムを創意工夫して編成し、特色ある教育活動を展開することが挙げられています。

特別支援教育については、特別支援学校に在籍する子どもの障害の重度・重複化や多様化への対応、自立と社会参加を促進するための職業教育や進路指導の一層の充実、また、幼稚園、小学校、中学校、高等学校における障害のある子どもへの適切な支援等が重要事項として位置付けられました。

一方、神奈川県教育委員会では、「かながわ教育ビジョン」において、「子ども一人ひとりを大切にはぐくむ教育の充実」「豊かな人間性や社会性をはぐくむ教育の推進」「時代や社会の変化に対応できる教育の推進」を重点項目としています。

神奈川県における特別支援学校の入学者は年々増加し、教育的ニーズも多様化しているため、児童・生徒一人ひとりに対するきめ細かな教育が一層必要です。その対応には、個々の児童・生徒の実態を踏まえ、カリキュラムの創意工夫と開発が重要であり、とりわけ、高校に設置されている特別支援学校分教室^{注1}には、次のような課題があります。

- ・分教室には、障害が比較的軽度の生徒が在籍しているが、こうした生徒の多様な教育的ニーズに対応するには、カリキュラムや対応に様々な工夫が必要なこと^{注2}。
- ・分教室が開設されてからまだ日が浅く、実践的な研究の積み重ねが少ないこと。
- ・分教室の新設が今後も予定されており、特別支援学校におけるカリキュラム開発の視点や実践例を示すことは、今後の教育実践の展開に寄与すること。

この研究では平成20年度に新設された分教室を持つ特別支援学校を研究校とし、特色あるカリキュラムの開発の視点とその実践事例について、研究校とセンターが共同で研究を進めました。

注1 神奈川県では、養護学校の過大規模化への対応のひとつとして、平成16年度から分教室を設置してきました。

注2 平成19年度神奈川県知的障害養護学校教育研究会、県立瀬谷養護学校による実践発表より。

2 研究のねらい

この研究では、次のことをねらいとして研究を推進しました。

- ・平成 20 年度に新設された分教室を持つ特別支援学校を研究校とし、その分教室を対象として多様な生徒の教育的ニーズを踏まえた「特色あるカリキュラムの開発方法や視点」を示すこと。
- ・開発された「特色あるカリキュラムの内容」と「単元例」を示すこと。

3 研究スケジュール

研究校分教室の所属教員とセンター所員によって、研究協議会（以下、「協議会」と表記。）を月 1 回行いました（第 1 表参照）。

第 1 表 研究スケジュール

4 月	研究方針と計画の検討
5 月～ 7 月	アセスメントとケース会議の実施
8 月～ 11 月	授業研究とカリキュラムの検討
12 月～ 1 月	研究のまとめ

4 研究校分教室の概要

研究校は、今年度の 4 月に分教室を開設しました。生徒数、分教室の教育目標等は、第 2 表のとおりです。（以下、研究校分教室を「分教室」と表記。）

第 2 表 研究校分教室の概要

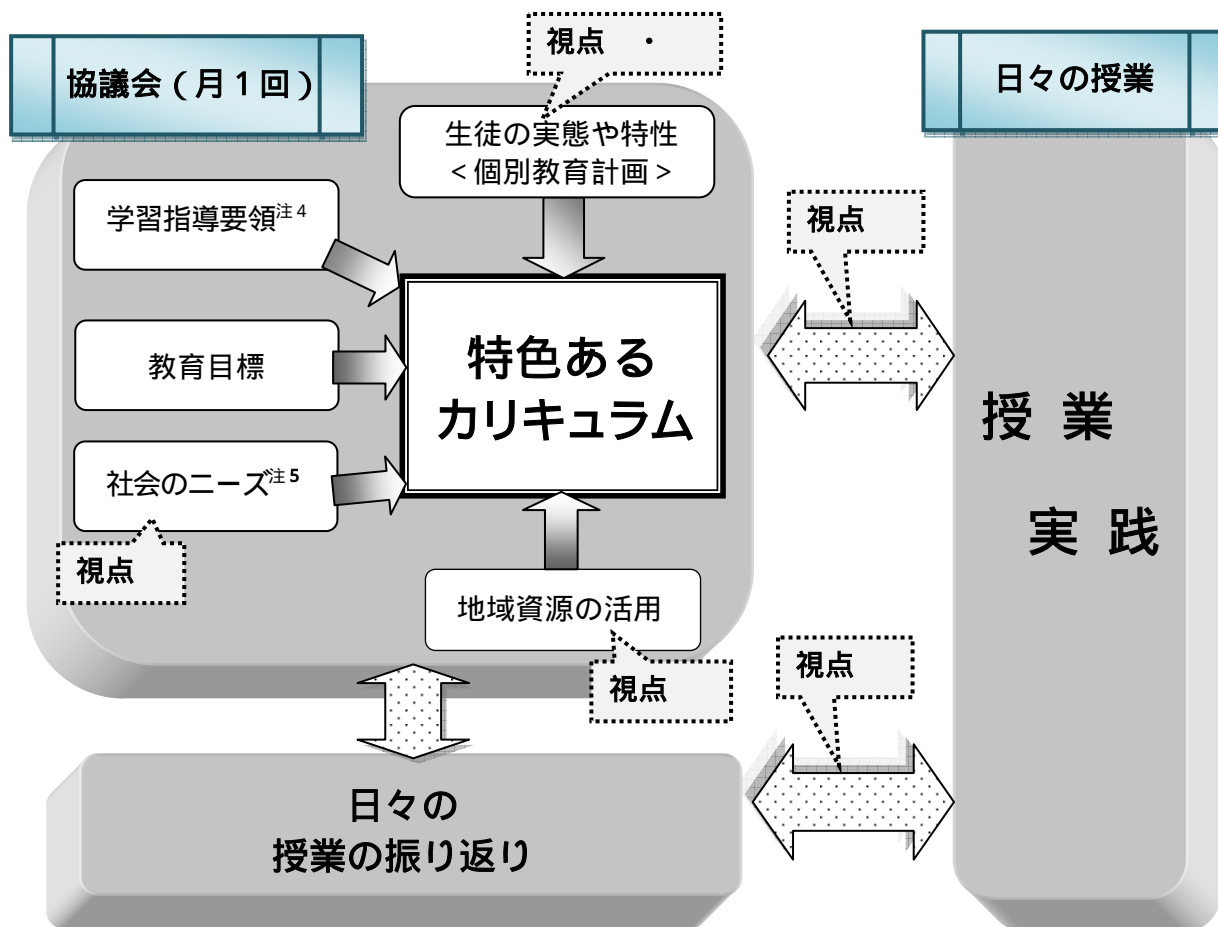
開 室	平成 20 年 4 月
生 徒 数	10 名（高等部 1 年生）
教育目標	<ul style="list-style-type: none">・社会生活に必要な基礎知識、ルールやマナーを身に付け社会性を高める。・働くことの意欲や意識を高め、自立と社会生活に向けた力を育てる。・思いやりのある豊かな心の育成を図る。・自ら選択し、自ら判断して行動できる力を育てる。・地域の活動に参加し、社会資源を活用する力を育てる。
教育課程	国語・数学・音楽・美術・保健体育・職業・家庭・英語・情報・総合 ^{注3}

注3 「総合」は、日課表上の呼称です。

5 カリキュラム開発の方法と視点

(1) カリキュラム開発の方法

この研究では、分教室の教育目標を達成すべく、生徒の実態、社会のニーズ、地域の特性等を踏まえて、特色あるカリキュラムの開発を行いました。協議会では、授業実践を踏まえてカリキュラムの改善の検討を行い、日々の授業と協議会とのつながりを持たせながら、研究を進めました（第1図参照）。



第1図 研究イメージ

注4 高等部1年～3年のカリキュラムを開発するため、現行の特別支援学校学習指導要領に加え、中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」を参照しました。

注5 特別支援学校卒業者の企業等への就職は依然として厳しい状況にあり、特別支援学校高等部における自立と社会参加を促進する教育が求められています。（中央教育審議会2008）

(2) 開発の視点

次に、カリキュラム開発の視点を示します。

生徒の実態の把握～アセスメントの実施～

特色あるカリキュラムづくりには、生徒の実態をつかむことが必要です。学校における学習活動の様子を踏まえ、研究校の要請を受け、センターのアセスメント事業を活用し、個々の生徒のアセスメントを実施しました。

アセスメントでは、個々の生徒の学習上の課題解決のために、指導主事、必要に応じて各専門職（言語聴覚士、作業療法士、臨床心理士）担任が協働チーム^{注6}として、諸検査を実施しました。活動する上での基本的な諸能力（操作、コミュニケーション、理解等）を整理するために作業検査を全員に実施し、また学習や行動の様子を踏まえ、必要に応じて心理検査、言語検査、運動・操作検査を実施しました（第3表参照）。

第3表 センターにおけるアセスメント^{注7}

* センターでは、アセスメント事業として、指導主事と各専門職（言語聴覚士、作業療法士、臨床心理士）の協働によってアセスメントを実施している。

* **アセスメント**とは、行動観察や作業検査、心理検査、言語検査、運動・操作検査を通して、発達の水準、得意なこと、苦手なこと等を把握して、指導内容や支援の方向性等を整理することをいう。

- ・ **作業検査**：指示理解、課題理解、手指の巧緻性、持続力、判断力、道具の操作性等をとらえるために行う検査（タッピング検査、ボールペン分解・組立検査、はさみ検査等）
- ・ **心理検査**：臨床心理士が、認知の特性や知的な発達のバランスをとらえるために行う知能検査等
- ・ **言語検査**：言語聴覚士が、ことばやコミュニケーション、対人関係をとらえるために行う言語や社会性にかかわる検査
- ・ **運動・操作検査**：作業療法士が、動き、姿勢、手腕・手指の操作性、日常生活動作等をとらえるために行う検査

注6 神奈川県教育委員会平成20年3月「支援教育」を参照してください。

注7 詳細は、平成18年度センター研究成果物『アセスメントハンドブック - 評価の手引き -』（本編・資料編）を参照してください。



カリキュラム開発の視点

**協働チームによる生徒一人ひとりの
実態把握
専門職が参加する**

指導内容や支援の方法の検討～ケース会議の実施～

アセスメントの結果を踏まえ、生徒一人ひとりの支援方法を検討するために、協働チーム（担任、指導主事、各専門職）でケース会議を行いました。ケース会議では、学習、認知、コミュニケーション、言語、運動・操作、行動等の特性について検討しました。検討した内容については、第4表に示します。

第4表 ケース会で検討した内容(抜粋)

特性や改善すべき課題	支援の方法
【コミュニケーション】 ・全体場面での言葉の理解が十分でない。 ・ことばの表出に制限がある。	・個別に、具体的な単語で指示。視覚的手立ても活用する。 ・発表場面では「読み原稿」を活用する。
【理解】 ・手順の理解が曖昧になりやすい。 ・課題理解時に最後まで注視が難しい。	・指示書等を活用する。 ・名前の呼びかけ等で注意を引く。ポイントを絞り説明する。
【意欲・心理的不安】 ・周囲の音や他者の声でストレスがたまりやすい。 ・失敗すると意欲が低下する。	・授業場面で発言する際にルールを設ける。 ・達成可能な課題から始め、段階的に難易度を上げる。
【持続】 ・一定時間の取組で、注意の集中が途切れやすい。	・一つの課題は10分程度とし、課題終了時チェックポイントを設定し、自身で確認させる。
【姿勢・手指の操作】 ・学習姿勢が崩れやすく、また足が動く。 ・初めての作業では、手指の操作にぎこちなさがある。	・適切な作業台と背もたれのある椅子を準備する。 ・初めての作業では練習を十分行い、習熟させる。

特にここで重点的に検討したことは、コミュニケーション上の課題、注意の集中の課題、心理的不安等でした。学習、生活、対人関係等のつまずきに、これらが関連していることが共通理解されました。

この現状を受け、自立活動領域^{注8}として、言語指示の出し方（簡潔に、分かりやすく）、リラクゼーションの必要性や活動への見通しの持たせ方、教室における発言の仕方等のルール設定、過剰な情報刺激になる事物の整理等についての配慮が確認されました。

注8 特別支援学校新学習指導要領の自立活動領域は、「人間関係の形成」が新区分として設定され、「健康の保持」、「心理的な安定」、「環境の把握」、「身体の動き」、「コミュニケーション」とともに6区分26項目となります。

カリキュラム開発の視点

特性を踏まえた支援方法を工夫する

地域資源の活用

地域資源の活用を考えるために、分教室の現状について検討を行い、特色と課題について整理しました（第5表参照）。既設の分教室の教育実践を参考にしながら、課題については、特色を最大限に生かすという方針で、課題解決に向けた具体的な手立てを検討しました。

第5表 研究校分教室の現状（抜粋）

	特色	課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉指導がある程度可能である。 ・集団行動が可能である。 ・個々の発達上の課題に重なりがある。 ・1クラス編成のために、活動の小回りがきく。 ・教員数が少ないことから、意思決定が迅速である。 ・高校との日常的な交流ができる（生徒・教員）。 ・高校内に設置されているため、開かれた学級になっている。 ・公共施設として、公園や図書館が近隣にある。 ・自然環境が豊かな立地である。 ・駅から近く移動がしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室等、使用上の制限がある。 ・教員の人的資源に限りがあり、専門外を担当する必要がある。
手 立 て	<p>【方向性】地域資源を積極的に活用することで、教育活動の場を広げる。</p> <p>地域の外部講師（ゲストティーチャー）を活用する。</p> <p>地域の諸施設を活用する。</p> <p>地域資源を活用した校内活動と校外活動を取り入れたカリキュラムを開発する。</p>	

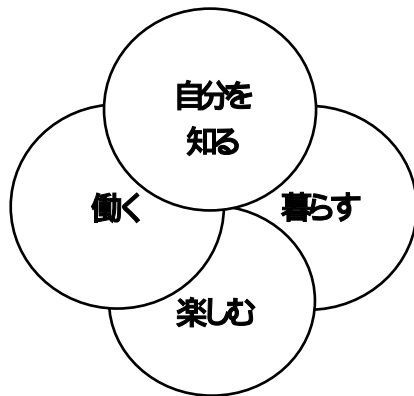
その結果、教育実践の方向性として、地域資源を積極的に活用し、教育活動の場を広げることが共通理解されました。具体的には、人的な制約については外部講師（ゲストティーチャー）を活用する、教室の使用上の制約については地域施設を利用する等、地域資源を積極的に活用し、校内における活動と校外における活動をカリキュラムに位置付けることが確認されました。

カリキュラム開発の視点

**特色を最大限に生かす
地域資源を活用する**

社会参加を目指したカリキュラムの検討

社会参加に向けた単元をカリキュラムに明確に位置付けるために、平成 19 年度センターの研究成果物「『進路学習の内容一覧 - 社会参加を進める力とその学習シラバス(例) - 』活用ガイド」を参考にして、検討を進めました^{注9}。すでに実践された単元や今後実践予定の単元を付箋に書き出し、「自分を知る」、「働く」、「楽しむ」、「暮らす」の4分野と14小分野ごとに整理し(第2図、第6表、第7表参照) 更に3年間における系統や発展を踏まえ、分教室における特色あるカリキュラムについて検討を重ねました。



第2図 社会参加の視点^{注9}

第6表 社会参加のカリキュラムの視点^{注9}

分野	小分野
「自分を知る」	A 自己理解
	B 将来設計
「働く」	C いろいろな仕事
	D 職場で大切なこと
	E 作業学習
	F 現場実習
	G 現場実習事前事後学習
「楽しむ」	H 大人のマナー
	I コミュニケーション
	J 余暇
「暮らす」	K 金銭管理・消費生活
	L 健康的な暮らし
	M 独り立ち
	N 制度の理解と利用

注9 平成 19 年度センター研究成果物「『進路学習の内容一覧 - 社会参加を進める力とその学習シラバス(例) - 』活用ガイド」の2ページより引用。

第7表 付箋を使った社会参加を目指した単元の整理(抜粋)

小分野	単元名
A 自己理解	学校の友達
	自分の生き立ち
	自分の家族
	進路面談
C いろいろな仕事	就労体験
	職業インタビュー
	家族の仕事
L 健康的な暮らし	レシピを見て作ってみよう
	整理・整頓
	洗濯しよう
	防災訓練

カリキュラム開発の視点

社会参加を目指す

自分を知る・働く・楽しむ・暮らす

授業研究の実施～多面的な検討～

開発したカリキュラムで実践した授業を対象に、授業研究を行い、単元内容や指導方法等について課題と改善点を整理しました。これは、二つの場で話し合いました。

第一の場は、生徒下校後の諸業務の合間に、今日の実践を振り返るインフォーマルな場での授業研究です。これは、日常的に職員室での教員間のやりとりで行いました。

第二の場は、授業研究の時間を計画的に設定し、担当教員に加え助言者等（第8表参照）が参加し、授業の諸課題と改善点の検討を行うフォーマルな場での授業研究です。その話し合いの中で検討したことの概要は、第9表で示すとおりです。

インフォーマルな場とフォーマルな場での授業研究を通して、開発したカリキュラムの検証を行い、改善点を踏まえて次の実践に生かしました。

第8表 授業研究の助言者

区分	職種等
外部の助言者	外部講師、指導主事、臨床心理士、言語聴覚士
校内の助言者（分教室教員以外）	学校長、進路専任教員

第9表 授業研究の視点（抜粋）

区分	協議の視点
・指示の方法	一斉場面での指示方法、個別指示の必要性、注意の向け方等
・学習態度	注意の集中、意欲、発言、持続度、ストレス等
・対人関係	生徒同士、教員と生徒、チーム・ティーチング等
・課題と理解の水準	取組の速度、正確さ、課題の受入れ、指導グループ、課題の妥当性等
・展開	導入における課題意識や見通しの持たせ方、山場、まとめ方、単元構成等
・板書やプリント	分かりやすさ、工夫、計画性、理解力に応じた配慮等

カリキュラム開発の視点

**授業研究を通して検証する
インフォーマルな場とフォーマルな場を活用する
外部助言者、校内関係者が参加する**

第2章 開発したカリキュラム

カリキュラム開発の視点 から視点 による検討を経て、それぞれの単元は、各教科等の単位（国語、数学、音楽、美術、保健体育、職業、家庭、英語、情報、総合）に整理しました。その概要をここで示します。

1 カリキュラムの特色

開発したカリキュラムの特色は、次のとおりです（第10表参照）。

第10表 開発したカリキュラムの特色

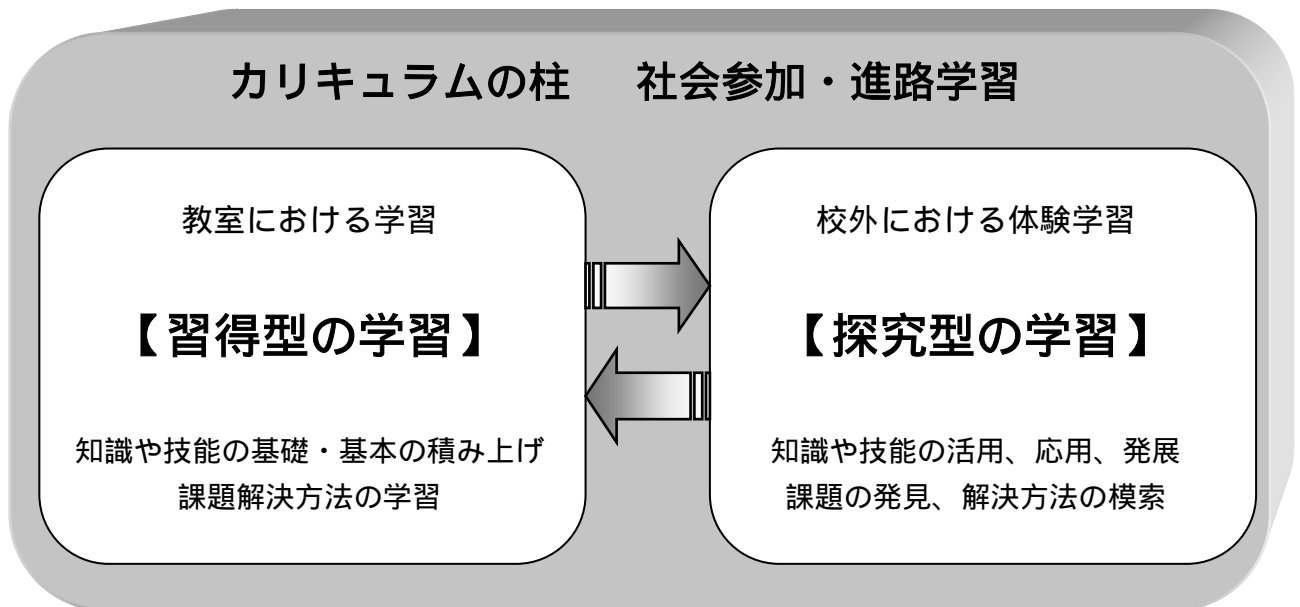
社会参加や進路学習を、カリキュラムの柱とする。
教室における学習を、主に基礎・基本を積み上げる習得型の学習として位置付ける。
校外における地域の諸資源を活用した体験学習を探究型の学習として位置付ける。
教室における習得型の学習と校外における探究型の学習を双方向に関連付ける。
外部講師を積極的に活用する。
コミュニケーション、対人関係、心理的不安等の課題（自立活動領域）を踏まえ、単元を設定する。

どの教科等においても社会参加や社会生活に必要な知識や技能を身に付けることをねらいとしています。これは、社会人、職業人として自立していくために勤労観・職業観を育てるキャリア教育が必要であること、特別支援学校卒業生の企業等への就労が厳しい状況にあり一層の職業教育の充実が求められていることを踏まえています。

「職業」では職業に就く上で必要な知識・技能・態度を、「家庭」、「総合」、「情報」では社会生活や家庭生活に必要な知識・技能を、「国語」、「数学」では「読み、書き、計算」の知識・技能をそれぞれ育てることを主なねらいとしています。また、「体育」、「音楽」、「美術」については、それぞれの教科の持つねらいとともに余暇活動にかかわる知識・技能を育てることもねらいとしています。いずれの教科等においても、教室での学習活動を通して基礎・基本をスモールステップで積み上げる習得型の学習を目指します。

地域の諸資源を活用した体験学習（例えば「職業」における就労体験、現場実習、「総合」における校外学習等）では、様々な知識や技能を実際的な活動を通して習得するとともに、個々の生徒が課題に気付き、社会生活において大切なことや解決の方法を考えることをねらいとした探究型の学習を目指します。

探究型の学習では、教室で学んだ知識や技能の活用、応用、発展をねらうとともに、習得型の学習では、そこで解決できなかった課題解決の方法を教室で学習していくという双方向の教育を目指しています（第3図参照）。



第3図 社会参加を目指した双方向の教育

地域から外部講師を招くことは、少ない教員数でもテーマに応じた授業展開を実現することにつながります。また、学習内容を充実させ、授業のレパートリーを増やすことが可能となり、地域との関わりを深めることにもつながります。

アセスメントにより整理されたコミュニケーション、対人関係、心理的不安等の課題に対し、単元を設定しました。例えば、「総合」における「発言の際のルール」「場面に応じた言葉遣い」「会話の時の相手との距離」「他者の気持ちの理解」「セルフコントロール(カウンセリングルームにおける対応)」等です。また、これらの課題については、学校生活全体に及ぶ課題でもあるため、教育活動全体で指導や支援が行われます。

2 カリキュラム一覧

開発したカリキュラムは、第 11 表のとおりです。なお、ここでは「総合」、「家庭」、「職業」を掲載します。

第 11 表 カリキュラム一覧（抜粋） 【総合】

領域	1 年	2 年	3 年	※注10
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の理解 ・計画的な行動 	<p>地域の様子を知る 校外学習への参加 近隣のマップ作り、地域の資源（会社、商店等）を探索</p> <p>校外における活動の振り返り</p>	<p>地域活動 校外学習の企画 1 情報の収集、予算を踏まえた計画、交通機関の利用、公共の機関でのマナー *「余暇利用」と関連 *家庭：「食生活」と関連 校外における活動の振り返り</p>	<p>地域活動 校外学習の企画 2 情報の収集、予算を踏まえた計画、交通機関の利用、公共の機関でのマナー *「余暇利用」と関連 *家庭：「食生活」と関連 校外における活動の振り返り</p>	情報活用能力
<ul style="list-style-type: none"> ・公的な機関の役割 	<p>公的機関の役割 1 ・図書館内の仕事や役割を知る ・公園内の仕事や役割を知る *職業：「図書館での就労体験」と関連 *職業：「運動公園での就労体験」と関連</p>	<p>公的機関の役割 2 ・銀行や郵便局の役割と利用方法の理解 *家庭：「住生活」と関連</p>	<p>公的機関の役割 3 ・市役所（福祉課）職安等の福祉・労働関係の機関を知る ・関係機関の役割や利用方法の理解 ・選挙の仕組みを知る ・困った時の相談機関を知る *家庭：「福祉サービス」と関連 *職業：「校外での就労体験」と関連</p>	将来設計能力
<ul style="list-style-type: none"> ・自分を知る ・仲間づくり ・友達づきあい ・社会への参加 ・コミュニケーション ・ソーシャルスキル 	<p>身だしなみ セルフコントロール、ストレスマネジメント 場面に応じた言葉遣い 場に応じたマナー 発言の際のルール 交通機関の利用、マナー 会話の時の相手との距離 相手の気持ちの理解、状況の理解 仲間づくり - 就労体験の報告 *職業：「自己紹介1」「自分の特徴」「いろいろな役割1」と関連</p>	<p>身だしなみ セルフコントロール、ストレスマネジメント 場面に応じた言葉遣い 場に応じたマナー 発言の際のルール 交通機関の利用、マナー 会話の時の相手との距離 相手の気持ちの理解、状況の理解 仲間づくり *職業：「自己紹介2」「現場実習の振り返り1」「いろいろな役割2」と関連</p>	<p>身だしなみ セルフコントロール、ストレスマネジメント 場面に応じた言葉遣い 場に応じたマナー 発言の際のルール 交通機関の利用、マナー 会話の時の相手との距離 相手の気持ちの理解、状況の理解 仲間づくり *職業：「自己紹介3」「現場実習の振り返り2」「いろいろな役割3」と関連</p>	人間関係能力
<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器の活用 	<p>パソコンの基本操作 2 ・情報検索：インターネットやメールの活用 情報モラル</p>	<p>パソコンの基本操作 2 ・情報検索：インターネットやメールの活用 情報モラル</p>	<p>パソコンの基本操作 3 ・情報検索：インターネットやメールの活用 情報モラル</p>	情報活用能力

印を付けたものは、単元例として 17 ページに掲載しています。

注 10 この欄には、平成 16 年度センター研究成果物「キャリア教育推進ハンドブック」を参考に、「キャリア発達の能力領域」を記載しています。

【家庭】

領域	1年	2年	3年	★注10
・消費生活	<p>計画的なお金の使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシを使ってお得な買い物、商店での買い物、携帯電話料金 	<p>生活費と給料 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活費って？給料の話 *「将来の住居」と関連 <p>消費生活 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話の利用（使いすぎ、情報モラル、0円の秘密） ・広告や宣伝の意味（うまい文句にご用心） 	<p>生活費と給料 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給料はどれくらい？ ローンとカード、いろいろなカード（キャッシュカード、クレジットカード、プリペイドカード等） 税金の話、社会保険料等 *「将来の住居」と関連 <p>消費生活 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪徳商法（だましのテクニック）、契約の怖さ 	将来設計能力
・食生活	<p>簡単な調理 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トースターやホットプレートの使用：ホットケーキ、サンドイッチ、お好み焼き <p>調理の基本（切る、混ぜる、焼く）</p> <p>調理の手順、使われた食品の栄養素、賞味期限、保存方法等について</p> <p>レシピに基づいた調理</p>	<p>簡単な調理 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弁当作り <p>調理の基本（切る、煮る、炊く、焼く、揚げる、あえる等）</p> <p>調理の手順、使われた食品の栄養素、賞味期限、保存方法等について</p> <p>レシピを読む、献立の構成、予算を踏まえた献立づくり</p> *「消費生活」と関連	<p>簡単な調理 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夕食ニュー：麺類を活用した献立 <p>調理の基本（切る、煮る、炊く、焼く、あえる等）</p> <p>調理の手順、使われた食品の栄養素、賞味期限、保存方法等について</p> <p>レシピを読む、献立の構成、予算を踏まえた献立づくり</p> *「消費生活」と関連	意思決定能力
	<p>健康的な食生活 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の食生活の振り返り（あなたの食生活はイエローカード？） ・栄養素とその役割 	<p>健康的な食生活 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の食生活の振り返り（あなたの食生活はイエローカード？） ・栄養素とその役割 ・健康な体、肥満な体、やせた体 	<p>健康的な食生活 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の食生活の振り返り（あなたの食生活はイエローカード？） ・食品添加物、賞味期限、食中毒 	意思決定能力
・衣生活	<p>衣服の基礎的な知識</p> <p>活動に応じた服装、夏服と冬服の違い、素材</p> <p>清潔な身なり 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯の方法（手洗いと洗濯機） ・下着の役割 <p>裁縫の基礎</p>	<p>季節に応じた衣服とファッション（素材、色、柄、靴）</p> <p>清潔な身なり 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイロンの方法 <p>裁縫の基礎</p> <p>予算を踏まえた計画的な衣服の購入</p>	<p>場に応じた服装（カジュアルと正装）</p> <p>清潔な身なり 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリーニングの活用 ・化粧 <p>裁縫の基礎</p> <p>予算を踏まえた計画的な衣服の購入</p>	情報活用能力

「家庭」の続きは、次ページに掲載しています。

前ページの「家庭」の続きです。

領域	1年	2年	3年	*注10
・住生活	<p>健康な暮らし1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清潔とは、歯磨き、入浴、清掃 ・ゴミの分別 ・地球環境を考える、循環型社会 	<p>健康な暮らし2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃の方法、ゴミの出し方、防災への備え ・病気の知識と予防 <p>将来の住居1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループホームの様子、見学 <p>*総合：「校外学習の企画」と関連</p>	<p>健康な暮らし3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体調の管理、病院の利用、健康な食生活、お酒とたばこ、防犯、防災への備え <p>*「食生活」と関連</p> <p>将来の住居2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループホームとアパートの暮らし、家賃、契約、マナー ・福祉を知る ・福祉サービス、年金、自立支援法、地域のケースワーカーの活用 <p>*総合：「校外学習の企画」と関連</p>	意思決定能力
・家庭生活	<p>自分の家族</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族と家庭 	<p>将来設計1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな生き方 ・人の誕生、成長 	<p>将来設計2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな生き方 ・結婚、子育て ・性教育 	将来設計能力
・将来を考える ・人生を考える	<p>私の夢1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生い立ち（写真や家族インタビュー等）自身の振り返り、将来の姿や夢 	<p>私の夢2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な学習経験や実習等の振り返り ・将来の姿や夢 	<p>私の夢3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な学習経験や実習等の振り返り ・将来の姿や夢 ・具体的な人生設計、必要な行動、アクション <p>*家庭：「家族」と関連</p>	情報活用能力



【職業】

領域	1年	2年	3年	★注10
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分を知る ・ 見つめる ・ 表現する 	自己紹介 1 ・ 名前、住所、家族、趣味等、正しい言葉遣いで発表 ・ 友達の特長等の理解、自分との違いの理解	自己紹介 2 ・ 場面に応じた自己紹介 ・ 質問への適切な応答	自己紹介 3 ・ 場面に応じた自己紹介 ・ 自己 PR 文、履歴書	自己教育能力
	自分の特徴 ・ アセスメント結果を通して、自分の特性(得意、苦手)を知る	現場実習の振り返り 1 ・ 現場実習における評価、自身の課題の理解、改善に向けて	現場実習の振り返り 2 ・ 現場実習における評価、自身の課題の理解、改善に向けて	現場実習の振り返り 2 ・ 現場実習における評価、自身の課題の理解、改善に向けて
<ul style="list-style-type: none"> ・ 役割を知る 	いろいろな役割 1 ・ 家庭での自分の役割 ・ クラスや職業班における自分の役割	いろいろな役割 2 ・ 家庭での自分の役割 ・ クラスや職業班における自分の役割 ・ 現場実習における自分の役割	いろいろな役割 3 ・ 現場実習における自分の役割 ・ 社会に出てからの自分の役割	人間関係能力
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事を知る 	いろいろな仕事 1 ・ 働く人々へのインタビュー ・ 働くことの意味の理解 ・ 地域で働く人々を通して、様々な職種の理解 ・ 働く現場を見学、働く人々の様子の理解 *総合:「地域の様子」「校外学習」と関連 <u>職業インタビュー</u>	いろいろな仕事 2 ・ 働く人々へのインタビュー ・ 働くことの意味の理解 ・ 求人情報の活用 ・ 仕事の内容、勤務時間、給料等の理解 *総合:「情報検索」と関連 *家庭:「消費生活」と関連 ・ 実際に働く現場を見学、働くことの意味の理解 *総合:「地域活動」「校外学習の企画」と関連	いろいろな仕事 3 ・ 様々なメディアから仕事の内容や条件等について理解 ・ 職業安定所の役割や利用方法等の理解 *総合:「校外学習の企画」と関連	情報活用能力

印を付けたものは、単元例として 18 ページに掲載しています。

「職業」の続きは、次ページに掲載しています。



前ページの「職業」の続きです。

領域	1年	2年	3年	★注10
・働くことを体験する(職業班、現場実習)	職業班と現場実習 ・実際の作業を通して、以下の観点について、理解を深める ・働くことへの理解、指示理解、作業量(ノルマ)、意欲、責任、持続、集中、安全意識、準備、片付け、道具の利用、作業能率、正確さ、判断、速さ、習熟度、「ほう・れん・そう」等 <u>図書館での就労体験</u> <u>運動公園での就労体験</u>	職業班と現場実習 ・実際の作業を通して、以下の観点について、理解を深める ・働くことへの理解、指示理解、作業量(ノルマ)、意欲、責任、持続、集中、安全意識、準備、片付け、道具の利用、作業能率、正確さ、判断、速さ、習熟度、「ほう・れん・そう」等 ・校外での就労体験と現場実習	職業班と現場実習 ・実際の作業を通して、以下の観点について、理解を深める ・働くことへの理解、指示理解、作業量(ノルマ)、意欲、責任、持続、集中、安全意識、準備、片付け、道具の利用、作業能率、正確さ、判断、速さ、習熟度、「ほう・れん・そう」等 ・校外での就労体験と現場実習	情報活用能力
・進路を考える	策定会議と進路面談1 ・アセスメント結果の理解と将来の夢	策定会議と進路面談2 ・現場実習の振り返り	策定会議と進路面談3 ・進路決定に向けての協議への参加	将来設計能力

印を付けたものは、単元例として19・20ページに掲載しています。



第3章 単元例

単元例として、総合「仲間づくり - 就労体験の報告」、職業「職業インタビュー」、「図書館での就労体験」、「運動公園での就労体験」を示します。

総合「仲間づくり - 就労体験の報告」は、円滑なコミュニケーションや対人関係のルールの理解をねらい、外部講師を活用した事例です。

職業「職業インタビュー」は、外部講師を積極的に活用し、働くことの意味を学習した事例です。

「図書館での就労体験」、「運動公園での就労体験」は、地域施設を教育の場として活用し、実際に働くことを通してその意味や難しさを学習した事例です。教室での基本的な知識の習得と体験学習を通しての知識・技術の応用や課題の探究を双方向に関連させて進めました。また、「運動公園での就労体験」では、外部講師を活用しています。



【総合】 単元名：「仲間づくり - 就労体験の報告」

～ 構成的グループエンカウンターの活用～

Key word：外部講師の活用 コミュニケーションの課題(他者理解・ルールの理解)

1 題材のねらい

友達との交流を通してコミュニケーションの方法や他者の気持ちを理解することをねらいとする。具体的には、ゲームのやり方に慣れる、自分の心の動きを振り返り、相手の心を察し、自分の心をコントロールする、自分の体験したことを相手に伝え、相手の話を聞く、「話す・聞く」というシェアリング(感想を伝え合い、共有し合う)を通して体験を深める、という五つのことを身に付けさせたい。なお、構成的グループエンカウンター^{注11}の外部の専門家に講師を依頼した。

2 指導計画

年間5時間(1学期2時間、2学期2時間、3学期1時間、今回は第4時間目)

3 使用した教材・教具等

- ・あいこじゃんけん
- ・就労体験シート
- ・振り返りシート



4 指導の展開・方法・手立て

事前学習(就労体験の振り返り)

就労体験シートを使用し、作業場所、作業内容、感想について順番に記述する。最後にそれらを文章にまとめる。

ウォーミングアップ

本単元に入る前にゲーム内容や流れを確認し、雰囲気慣れる目的で「友達じゃんけん(通常のじゃんけん)」や「あいこじゃんけん」を行う。

本日の課題

向き合った相手と「あいこじゃんけん」を行い、あいこになったらお互いに就労体験の報告をする。友達の報告を聞いたあと、振り返りシートの「友達の感想欄」に記入をする。

シェアリング

振り返りシートを使用し、振り返りを行う。あわせて、今日の感想を記入する。記入を終えた時点で、個々に感想を伝える。

5 生徒の学び

「じゃんけんゲーム」そのものは、他の授業の導入等でも使用し、生徒たちにとってなじみのゲームでありルールも自然に身に付きつつある。友達同士の関係も築かれ、お互いの個性を尊重しながらかかわる姿も見受けられるようになってきた。「話す」ことについては、徐々に声が大きくなる、明瞭になる等の改善が見られている。

6 実践の振り返り

一部の生徒は、じゃんけん等の活動が入ったことにより「聞き取る」ことが難しくなり、質問内容の理解が不十分でも「わかりました」と答えてしまう等、支援を必要とした。「聞く(聞き取る)」ことにおいては、まだ不十分であり、一方向に「話す」ことになりがちだった。他者の気持ちを理解しながら聞き取ることは今後の課題であり、対応を今後検討していきたい。

注11 「構成的グループエンカウンター」とは、用意されたプログラムによって作業・ゲーム・討議をしながら、心のふれあいを深めていく方法である。自分とは何かへの気づき、自己肯定、自己開示、他者への寛容などを学び、相互に認め合える人間関係を育てていくことをねらいとしている。

【職業】 単元名：「職業インタビュー」
～いろいろな仕事を知る～
Key word：外部講師の活用 働くことの意味 職種や仕事内容の理解 対人関係 主体的な活動

1 題材のねらい

教室訪問者への職業インタビューを通して、働くことの意味やいろいろな職種の理解等をねらいとする。特に、生徒自身によるインタビュー内容の検討、インタビューの実施で、「働くこと」を自身の課題としてとらえることをねらう。また初対面の人に対するあいさつや社会的マナー等も身に付けさせる。



2 指導計画

年間 10 回 金曜日 10：40～11：50

3 使用した教材・教具等

- ・インタビューカード
- ・インタビュー対象者（本教室訪問者）

【インタビュー項目】

- 1 どんな仕事をしていますか
- 2 仕事をしていて苦労することはありますか
- 3 どうやったらなれるのですか
- 4 失敗したことはありますか
- 5 仕事をしていて楽しいと思うことはありますか
- 6 気をつけていることは何ですか
- 7 給料はいくらですか

4 指導の展開・方法・手立て

- 自分の家族の仕事を調べる
- 学校や家の周りの仕事を調べる
- インタビュー項目を考え、カードを作成する
- あいさつやマナーについて確認する
- 実際にインタビューする（約10人に実施）
- インタビューの結果をまとめる

5 生徒の学び

実践を通していろいろな職種、仕事内容、苦労、給料等に違いがあることを理解できたと思われる。はじめは初対面の人に対し、緊張からあいさつやマナーが十分ではなかったが、回数を重ねる毎に徐々に場に応じた振る舞いができるようになってきた。特にインタビューでは、大きな声で質問することができるようになり、初対面の人とかかわる自信を深めたことを感じとることができた。インタビュー対象者に、分教室が設置されている高校の校長を始めとする教職員の協力を得たことで懇親が深まり、日常的なあいさつの習慣に広がり、あいさつの大切さを実感したように思われる。

6 実践の振り返り

この実践をきっかけに、高校の教職員とのかかわりが深まり、分教室の教育環境を実感できたようである。また、日頃の学校生活で友だちや教員に対し、必ず「おはようございます」「さようなら」などのあいさつを「大きな声」で「自ら」言うことができるようになってきたことから、より学びの多い単元だったと考える。

【職業】 単元名：「図書館での就労体験」
～ A 図書館における配架作業の体験～

Key word：地域資源の活用 働くことの意味や難しさ 社会参加 業務遂行 教室と校外の双方向

1 題材のねらい

年間を通して行っている就労体験を通して、働くことの意味を理解することをねらいとする。図書館の業務は、公共性が高く、内容も多岐にわたっている。図書館の基本的業務内容（特に配架作業）とそれが公共的業務であることを理解し、業務を遂行する力を養う。

2 指導計画

年間 20 回 火曜日 10：30～12：00



3 使用した教材・教具等

- ・カタカナ 50 音表
- ・数字・カタカナ配置表

* 基本的図書館業務のうち、配架作業を行うための必須の教材として活用した。

4 指導の展開・方法・手立て

配架作業では、本の背表紙に張り付けられているラベルの意味を理解し、適切な書架に配置することが必要である。ラベルには「日本十進分類表に基づく数字」、「著者名のカタカナ 1～3 語」の他、「巻数」、「分類シール」等が記載、貼付されており、最低二桁までの数字の順序とカタカナ文字の解読及び順序の理解が必須である。最低限必要な「数字とカタカナ」の序列について、毎回の就労体験前と体験後に教室で次の手順により確認し、練習した。

カタカナ 50 音表の確認

「アカサタナハマヤラワ」～「オコソトノホモヨロヲ」までの音読・唱和

架空の「数字・カタカナ」ラベルによる並べ替え練習

色分けシールの内容確認

5 生徒の学び

前記 ～ を就労体験前の確認と体験後の振り返りの中で行うことで、無意味な綴りのように思われるラベルの意味がわかり、就労体験を始めた頃に比べて、倍近い速度で配架できるようになった生徒もいた。また、体験前に、自発的に「アカサタナハマヤラワ」～「オコソトノホモヨロヲ」までを練習し、その順番の確認をするようになった生徒もいた。その他、常に図書館利用者がいるため、周囲を意識して作業している様子もうかがえた。

6 実践の振り返り

図書館業務は配架作業だけではなく、集本、返却業務、書架整理、書籍・雑誌・新聞整理、書庫内整理、書籍リサイクル、館内外清掃、館内外デコレーション等多岐に渡り、常に同じ作業を行うわけではない。その為、当初は毎回作業内容が変更されることに戸惑う生徒もいたが、配架作業で地道に積み上げられた自信が他の作業にも生かされ、新しい作業を急に指示されても前向きに取り組めるようになってきた。一つの作業を確実に理解し、遂行した体験が、他の業務への取組に生かされたと思われる。

【職業】 単元名：「運動公園での就労体験」
～B 運動公園での花壇の手入れと清掃作業～

Key word：地域資源の活用 外部講師の活用 社会参加 業務遂行 挨拶・報告・連絡・相談 教室と校外の双方向

1 題材のねらい

年間を通して行っている就労体験を通して、働くことの意味を理解することをねらいとする。運動公園での業務は、屋外での花壇やプランターへの苗の定植や水やり、雑草取り、落ち葉掃き等の作業を、チームで連携して行うことが求められる。チームでの作業では、報告・連絡・相談が重要であることを知り、仲間同士協力して仕事に取り組む姿勢を育てることをねらう。なお、現場での技術指導は、シルバー人材センターの方に依頼した。

2 指導計画

年間 20 回 火曜日 10：30～12：00

3 使用した教材・教具等

- ・ 振り返り用紙
- ・ ビデオ（作業風景）



4 指導の展開・方法・手立て

公園内の就労体験において、技術指導者（シルバー人材センターの方）への返事・報告・連絡等に重点を置き、作業中の様子をビデオ撮影した。

体験後、教室に戻り、振り返り用紙で自己評価をした。

作業の様子をビデオ視聴し、自分や友達の様子について、話し合いを行った。

その中で自分や友達の良い点や反省点に気付き、それを次回の改善目標と設定した。

5 生徒の学び

最初は作業中にすぐ座り込んでしまったり、指示をされても黙ってしまったりする生徒がいた。しかし、ビデオ視聴での活動の振り返りを重ねるごとに、生徒自身が自分の課題に気付くとともに、課題を意識するようになってきた。また、なかなか自分の良い点が見付けられない生徒に関しては、友達から評価されることで、自信を持って作業に取り組めるようになってきた。

6 実践の振り返り

ビデオを見ながら仲間と活動を振り返ることは、学びを深めるために効果的な取組であった。自分だけの評価でなく、友達から評価されることで自信が生まれ、また同じ作業をする友達の姿を見ることが良い刺激になっていることと推測できる。長期休業が入ると、時間経過による忘却から同じ目標の再設定が必要な場合が多いが、休業後にビデオを使うことで長期休業中のブランクを埋めることもでき、休業前に達成していた目標を踏まえて休業後の目標を設定できるという効果も出ている。

あいさつや返事、報告、連絡は、就労や社会参加にとって、大変重要なものである。今後も自己評価と他者評価を繰り返し行い、「仕事」に取り組む姿勢を養っていきたい。

引用・参考文献

《引用文献》

- 中央教育審議会 2008 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」 p.133
- 神奈川県教育委員会 2007 「かながわ教育ビジョン」 p.47
- 神奈川県立総合教育センター 2008 「『進路学習の内容一覧 - 社会参加を進める力とその学習シラバス（例） - 』活用ガイド」 p.2

《参考文献》

- 神奈川県教育委員会 2008 「支援教育」
- 神奈川県立総合教育センター 2007 「アセスメントハンドブック - 評価の手引き - 」
- 神奈川県立総合教育センター 2007 「アセスメントハンドブック - 評価の手引き - （資料編）」
- 神奈川県総合教育センター 2004 「キャリア教育推進ハンドブック」
- 文部科学省 2008 「高等学校学習指導要領、特別支援学校学習指導要領の改訂案」
- 全国知的障害養護学校長会 / 企画・編集 2007 「私たちの進路」ニチブン
- 田中耕治編 2007 『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房
- 無藤隆・嶋野道弘編 2008 『新教育課程を実現する学校づくり』ぎょうせい
- 無藤隆・嶋野道弘編 2008 『新教育課程で充実すべき重点・改善事項』ぎょうせい
- 無藤隆・嶋野道弘編 2008 『新教育課程で実現する教育システム』ぎょうせい

平成 20 年度研究指定校共同研究事業（特別支援学校）

『特別支援学校の特色あるカリキュラムの開発～分教室を対象として～』の
作成関係者

< 研究指定校 >

神奈川県立座間養護学校

< 神奈川県立総合教育センター >

所 属	職 名	氏 名
カリキュラム支援課	指導主事	金子 憲勝
進路支援課	指導主事	井出 和夫
進路支援課	指導主事	篠原 朋子

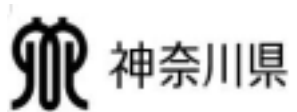
平成 20 年度研究指定校共同研究事業（特別支援学校）

特別支援学校の特色あるカリキュラムの開発
～分教室を対象として～

発 行 平成 21 年 3 月
発行者 安藤 正幸
発行所 神奈川県立総合教育センター
〒251-0871 藤沢市善行 7 - 1 - 1
電話 (0466)81-1659 (カリキュラム支援課 直通)
ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

本冊子は、ホームページで閲覧できます。

再生紙を使用しています



神奈川県立総合教育センター

カリキュラムセンター（善行庁舎）

〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1

TEL (0466)81-0188

FAX (0466)84-2040

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

教育相談センター（亀井野庁舎）

〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-4

TEL (0466)81-8521

FAX (0466)83-4500

